

2021年6月28日

学生各位

事務局 教務・学生チーム

2021年度秋学期「芸術の創造」 美術実技(デッサン) 履修希望者募集

2021年度秋学期開講科目「芸術の創造」について、下記のとおり履修希望者を募集しますので、受講を希望する学生は、別紙の「受講要領」及び「履修希望者募集要項」をよく読み、申込手続きを行ってください。

記

1 開講日程

8月21日(土)～8月24日(火) 全15回講義

2 申込受付期間

6月28日(月)～7月15日(木) 17:00まで

3 申込方法

事務局窓口に設置している「履修希望申込書」に必要事項をご記入の上、事務局横BOXに提出してください。

4 申込結果発表

7月19日(月) 12:00 (講堂アトリウム前掲示)

2021 年度秋学期「芸術の創造」美術実技（デッサン）受講要領

1 講師・アシスタント

(1) 講師

オーJUN先生

(東京藝術大学名誉教授、金沢美術工芸大学名誉客員教授、多摩美術大学客員教授)

(2) アシスタント

林菜穂先生

(作家・東京工科大学演習講師)

東京藝術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻油画・技法材料研究分野 修了)

2 履修定員

15名

3 授業概要

(1) 日程

1日目：8月21日（土）1時限～4時限（9：00～16：10）

2日目：8月22日（日）1時限～4時限（9：00～16：10）

3日目：8月23日（月）1時限～4時限（9：00～16：10）

4日目：8月24日（火）1時限～3時限（9：00～14：30）

(2) 会場

交流ホール（予定）

(3) 受講にあたって準備する物

・食パン（4ツ切りのもの）4枚

※1日1枚、消しゴム替わりに使用します。スーパー等で売っている安い食パンで十分です。

※その他デッサン実技に必要な消耗品は大学側で用意します。

(4) その他

・木炭を使ったデッサン実技ですので、汚れてもかまわない服装で受講してください。

・秋学期の履修登録期間に「芸術の創造」を必ず履修登録してください。

2021 年度秋学期「芸術の創造」美術実技(デッサン)

履修希望者募集要項

1 科目の概要

- ・本科目では実際に美術作品の制作を行い、芸術を生み出す過程について体験してもらおう。美術制作という活動を経験することは、芸術に対する新たな視点を生み、様々な表現に対する感性を培うことであろう。豊かな精神性を涵養する契機としたい。
(シラバス一部抜粋)
- ・科目名「芸術の創造」(1年生科目 教養2単位)
※評価方法等の詳細については、別紙シラバスを参照ください。

2 開講日程

8月21日(土)～8月24日(火) 全15回講義

※1限から4限までの実施とします。ただし、最終日8月24日(火)は、1限から3限までとなります。

3 申し込みの流れ

(1) 申込受付期間

6月28日(月)～7月15日(木) 17時00分まで

(2) 申込結果発表

7月19日(月) 12時00分 (講堂前アトリウムに掲示)

(3) 申込方法

事務局窓口の「芸術の創造」履修申込書に必要事項を記入の上、事務局横の回収箱へ提出してください。

(4) 申込者数が定員に満たなかった場合について

- ・申込者数が定員に満たなかった場合は、先着順にて追加申込みを受け付けます。
- ・詳細については、7月19日(月)の申込結果発表の際にお知らせします。

〔科目名〕 芸術の創造	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 教養科目
〔担当者〕 O JUN	〔オフィス・アワー〕 時間:9:00-16:00 場所:青森公立大学	〔授業の方法〕 対面式実技演習
〔科目の概要〕 <p>青森公立大学の学生に木炭デッサンとフリードローイングの演習、古今東西の美術の講義を行う。 ＊基礎実技の実践として木炭による人物デッサンの実技演習を行う。それによって基礎デッサンの意味を理解するとともに描きにおける身体性の探求を目的とする。</p> <p>何かを創造することは、人間に大きな喜びを与えてくれる。本科目では、実際に美術作品の制作を行い、芸術を生み出す過程について体験してもらう。</p> <p>美術制作という活動を経験することは、芸術に対する新たな視点を生み、様々な表現に対する感性を培うこと。本授業を学生たちの豊かな精神性を涵養する契機としたい。</p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>デッサンを行うことで物を観察する目を養い、平面へのイメージの変換、多角的視点の理解を深めることは、他分野への応用や思考方法の深化、展開に新たな視座を獲得する手がかりとなる。</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <p>中間目標としては、木炭や鉛筆など、画材に慣れ親しむ。また、モチーフを観察しそれを描写するための、基礎的な技術を訓練する。画面上の図像の位置や大きさなど構図とプロポーションの関係を認識する。 最終目標としては、必ずしも技術的な熟達のみが目的ではなく、中間目標がある程度達成されたうえでさらに各々の独自の創造性が見られるかどうかを評価する。</p>		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>昨年に続き本年度も授業に際しては講師、学生、関係者全体でコロナ新型コロナウイルスの感染予防に徹底的に努める。また授業の前後の各人の健康管理を確認し異常が認められた場合には直ちに大学に報告指示を仰ぐなど素早い対応を心掛ける。</p> <p>室温が暑いとありましたが今年は ACAC のアトリエではないので空調は問題ないかと思います。 今年もデッサンを描く楽しみ、創造することの大きな喜びを体験してもらえようこちらも工夫します。</p>		
〔教科書〕 <p>特になし 講義の中で古今東西の美術作品を画像や動画を見せる。</p>		
〔指定図書〕 <p>世界素描大系全 4 巻</p>		
〔参考書〕 <p>特になし (デッサン及びドローイングの参考図版などの資料)</p>		
〔前提科目〕 <p>なし</p>		

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

連日継続して行う実技授業なので出席を特に重視する。
学生が授業の中で制作したクロッキーやデッサン、フリードローイングを講評して採点する。

〔評価の基準及びスケール〕

デッサンにおける観察力、描写力、構成力、描くことを楽しむ工夫と努力の程度を評価基準とする。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

美術を専門としない学生に美術の面白さ、深さを想像し体験してほしい。
美術、芸術が人間の生活、社会に与える喜びや感動などポジティブな効果を、制作を通して理解してほしい。

〔実務経歴〕

東京藝術大学美術学部油画の常勤として今年3月まで12年間勤務、学生の指導する。他に4月からは多摩美術大学客員教授として油画学生の実技指導、講義を行っている。3年前から東京大学教育学部、教養学部(今年度後期から)で実技演習講師として指導を行っている。本校(青森公立大学)において本授業を7年間にわたり行う。その他大学、専門学校、美術館など教育機関でワークショップによる実技演習や講義講演を実施してきた。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): 人物デッサン 内 容: 9:00-10:30 デッサンについてのレクチャー及び、画材の使用についての説明。 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:10:45-12:00 人物クロッキー 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:13:00-14:30 モデル固定ポーズ 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:14:45-16:00 モデル固定ポーズ 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:9:00-10:30 人物クロッキー 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか): 内 容 10:45-12:00 モデル固定ポーズ 教科書・指定図書

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):</p> <p>内 容:13:00-14:30 ドローイングについてのレクチャー(デッサンとの違いとその制作の意味についてのレクチャー)</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):</p> <p>内 容:14:45-16:00 ドローイング制作</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):</p> <p>内 容:9:00-10:30 固定ポーズデッサン</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):</p> <p>内 容:10:45-12:00 固定ポーズデッサン</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):</p> <p>内 容:13:00-14:30 中間講評</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):</p> <p>内 容:14:45-16:00 デッサン仕上げ</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):</p> <p>内 容:9:00-10:30 デッサン講評</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):</p> <p>内 容:10:45-12:00 デッサン講評</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):</p> <p>内 容:これまでの総括</p> <p>総括のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物デッサンの実制作を通して次のことを学習できたか。 ・最初のレクチャーにおいて教材、参考資料とした画像や画集にある古典、近・現代のデッサンを鑑賞し、また講義を聴いて、デッサンがあらゆる芸術表現の基本的トレーニングでありその重要性を理解できたか。 ・実制作においては、対象(人物モデル)をよく観て、全体や部分の形状やプロポーション、バランス、人物の特徴等を描写できたか。 ・木炭、鉛筆、紙など描画材に慣れ親しむことができたか。観ることと描くこと相互の関係性を実制作のなかで体験的に理解できたか。 ・デッサンの出来不出来、技術的な巧拙を自他の評価とするのではなく、デッサン体験それ自体を楽しみ、それぞれの観方、個性がよく現れた生き生きとした表現となったか。 ・他人の描いた作品もよく鑑賞することができたか。一生懸命制作に集中したか。等 ・自分の絵、人の絵を見ること、自分で描くことを心から楽しめたか。 <p>教科書・指定図書</p>

試験

授業最終日の制作物の講評。全員講評。